

令和7年度

定期巡回随時対応型訪問介護看護

介護・医療連携推進会議における評価

こぶし24時間ケアサービスステーション喜多町

< 介護・医療連携推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	こぶし 24 時間ケアサービスステーション喜多町
所在地	(〒 940 - 2121) 新潟県長岡市喜多町2900番地		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24 時間 365 日営業。必要な人に必要なサービスを提供し、その人の築き上げた暮らしを支えていく。
 住み慣れた地域で、自分らしく暮らせるよう支援していく。
 情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2025 年 10 月 1 日	従業者等自己評価 実施人数	(13) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】 ()

実施日	西暦 2025 年 11 月 26 日	出席人数 (合計)	(18 人)	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	■自事業所職員 (3人) ■市町村職員 (1人) ■地域包括支援センター職員 (1人) ■地域住民の代表者 (3人) <input type="checkbox"/> 利用者 (0人) ■利用者の家族 (1人) ■知見を有する者 (6人) ■その他 (3人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目標・事業所計画の周知理解し、事業所全体のケアの質向上を図る。 ・利用者の状況理解を深め、専門的技術やケアの質向上に繋げる。 ・介護医療連携推進会議を開催し、状況報告や活動報告をし、地域課題につながる意見や要望を得られるよう事例検討をしていく。 ・BCP(業務継続計画)の見直しや災害時の安全対策・緊急時対応等、研修訓練する。サービス機関との連携等を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングや研修等で職員へ周知と理解を図った。 ・個別研修や外部研修に参加し専門的技術やケアの質向上に繋げた。 ・推進会議開催し、事例紹介や事例検討を通して地域で暮らし続けるために意見交換を行った。 ・BCPの見直しし最新情報をまとめた。災害時対応の研修訓練を実施した。 ・災害時の利用者安否確認表(緊急連絡表)を毎月新しく更新して整えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに理念・目標・計画の周知理解を図った。年度途中ではミーティングで取組み等周知している。 ・個別研修計画を半年ごとに評価している。法人内と外部研修に参加し内容共有し、質向上に繋がった ・推進会議では、活動報告が出来た。事例を通して地域支援と関わりについて意見交換ができた。地域へ回覧や勉強会、まちなね活動など情報発信ができた。サポートセンター喜多町として地域に向けてさらに情報発信や活動を積極的にしていきたい。 ・BCPの見直しはその都度する必要がある。感染症の種類による対応方法などさらに具体的にしていく。 ・災害時訓練を実施し対応の確認ができた。災害の種類による対応方法をさらに具体的に確認していく。 	
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況、特性、環境等から、危険予測を考え、防止に取り組む。 ・利用者の想いや生活歴、生活状況全般を多方面から把握し共通認識し利用者の自立した生活が継続できる支援に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな気づきや危険予測もヒヤリハットに挙げ危険防止対策を共有した。ヒヤリハット集計を毎月行った。 ・毎月モニタリングを実施し援助内容の見直しや必要時は計画の見直しをした。 ・できることや残存機能を活かし自立した援助方法を考え機能維持向上に繋げた。 ・一人の利用者についてカンファレンスを行い、課題分析、評価、援助内容統一を 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットと対策を共有し事故防止できている。職員の意識も定着できている。 ・モニタリング内容を見直し目標に合わせて評価できている。評価に繋がる目標の立て方を考える。 ・自立支援のため、本人のできることを話し合い援助方法を検討している。 ・カンファレンスは前もって意見を記入してもらいまとめている。意見を出す職員が偏っている。

			図った。	・本人の想いやニーズ把握、本人のできる事を見極めや援助方法の検討などアセスメント力が足りない。
2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22~27)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の在宅生活継続のため、多職種、多機関との情報共有し、早期対応や必要な見直し等サービスにつなげる。 ・利用者と地域とのつながり（地域サービス等含め）を考え多職種連携してサービスマネジメントに取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT フェニックスネットが多職種と情報共有を図り専門的な助言と早期対応に努めた。 ・認知症一人暮らしの利用者が利用する地域のインフォーマルサービスと連携し、在宅生活の維持継続を考えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェニックスネットを活用して多職種・他機関と共有 助言を受けている。早期対応につなげている。 ・利用者の生活状況により必要な介護保険外の地域支援やインフォーマルサービスとの連携を図ることができた。 ・地域支援やインフォーマルサービスの情報収集を図り、活用方法など内容把握し連携するようになりたい。 	
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28~32)	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートセンターの活動内容や介護情報等を地域へ回覧し情報発信を継続する。 ・推進会議を通して地域の意見や要望を聞き、サポートセンターや事業所ができること、連携できることを検討していく。 ・地域へ活動参加や情報提供する機会を作り地域との関りを深めていき活動定着に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートセンター喜多町の回覧を作成し、年4回季節ごとに地域へ発信した。回覧に定期随時サービスをわかりやすくまとめた。 ・推進会議で検討テーマを決めて事例を通して意見交換が出来るように工夫した。地域連携に繋げていけるよう意見交換した。 ・地域の参加を招く「まちなね」を開催し認知症についてお話をする。 ・地域の介護教室、地域の民生委員研修会に参加し、介護サービスの利用方法、在宅サービスまた入居施設の情報提供をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートセンターとして地域回覧し情報発信ができた。地域の介護教室や民生委員会の研修会に参加でき情報提供ができた。困っていることや知りたいことなど次につなげる事ができた。 ・推進会議で意見交換ができ、地域の災害時対応など困っていること等を確認できた。地域との関りを深めて、今後サポートセンターとしてできる事を協力していきたい。 ・地域の災害時対応の共有や緊急避難場所として地域の安心につながる活動をしていく必要がある。 ・地域のつながりを深める活動を計画して実施できた。地域ニーズの把握や求められる情報提供、意見交換など、気軽に話せる場として活動を広げ継続していく必要がある。 	
III. 結果評価 (評価項目 33~34)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の計画目標を評価し状況変化等の早期対応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のモニタリングで計画目標を評価し多職種間で共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成状況を確認し共有し、計画の見直しを図っている。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の声をお聞きし、安心して在宅生活が継続できるように状態変化に柔軟に対応し支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不適切ケア、虐待について研修し、職員間で話し合い共有した。定期的に各自で虐待チェックリストにて確認した。 ・年1回アンケートを実施しケアマネジャーやご利用者ご家族から意見をお聞きしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待研修を繰り返し実施し、不適切ケアについて話し合い、虐待チェックリストで自分を振り替えることができた。意識を高め援助に活かされている。今後も継続していく必要がある。 ・1月アンケート調査を実施しご意見を頂いている。今後も業務に活かしていくようにする。
--	--	--	--

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
1. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに理念・目標・計画の周知理解を図った。 ・年度途中でミーティングで取組み等周知した。 ・個別研修計画を半年ごとに評価し次の課題等確認できた。 ・法人内と外部研修に参加し内容共有し、質向上に繋がった ・推進会議を定期開催できた。事例を通して地域支援と関わりについて意見交換ができた。地域へ回覧や勉強会、まちなね活動など情報発信ができた。 ・BCPの見直しと訓練を実施できた。 ・災害時訓練を実施し対応確認ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人理念・こぶし園理念・事業所理念と目標の周知を図り、積極的取り組みをする。 ・個別研修の目標の評価を行う。 ・法人内や外部研修に積極的に参加し職員間で共有し援助に活かす。 ・定期的な推進会議の開催し事業所の理解を深める ・サポートセンター喜多町として地域に向けてさらに情報発信や活動を積極的にしていく。 ・BCP(感染、災害)の種類による知識や対応方法を具体的に確認し訓練をする。
Ⅱ. サービス提供等の評価	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットと対策を共有し大きな事故防止できた。職員の意識も定着できている。 ・モニタリング方法を見直した。各利用者の目標に合わせた評価をしている。目標の立て方を考える知識が必要。 ・自立支援、本人のできることに目を向けて、援助内容に活かす意識が持てている。 ・カンファレンスでは本人の想いやニーズ把握、本人のできる事を考えるようにした。悪化防止の為、先を見越した援助方法を検討した。 <p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェニックスネットを活用して多職種・他機関と共有 助言を受けている。早期対応につなげている。 ・利用者の生活状況により必要な介護保険外の地域支援やインフォーマルサービスとの連携を図ることができた。 <p>3. 誰でも安心して暮らせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポートセンターとして地域回覧し情報発信ができた。地域の介護教室や民生委員会の研修会に参加でき情報提供がで 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットの共有と事故防止対策の継続 ・虐待防止と対人援助技術の向上につなげるため、不適切ケアを考え気付くことを意識できるようにする。 ・利用者の自立支援のための目標設定を考える。 ・利用者の自立に目を向けたアセスメント方法の知識と実践ができるようになり、ニーズ把握ができる。 ・カンファレンスでは状態悪化防止と安定のために先を見越した援助方法を検討し実施できる。プランの見直しにつなげ援助に活かす。 ・多職種・多機関と共有連携を図り、繋げていく。 ・職員間で介護保険サービスだけでなくインフォーマルサービスや地域支援を考えること、連携することを考える。 ・地域支援やインフォーマルサービスの情報収集を図り、活用方法など内容把握し連携する。 ・地域と協力した災害訓練の実施。安心できる地域づくりに繋げる。

	まちづくりへの参画(評価項目 28~32)	<p>きた。困っていることや知りたいことなど情報を得る事ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進会議で意見交換が出来、地域の災害時対応など課題、困っていること等を確認できた。 ・地域のつながりを深める活動を計画して実施できた。地域ニーズの把握や求められる情報提供、意見交換など、気軽に話せる場として活動を広げ継続していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートセンターとして地域へ情報発信を継続する。 ・地域活動の場や機会を広げ、情報提供や地域ニーズの把握、意見交換を行う。 ・地域ニーズにサポートセンターとして協力できる事をする。
III. 結果評価 (評価項目 33~34)		<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成状況を確認し共有し、計画の見直しを図っている。 ・虐待研修を繰り返し実施し、不適切ケアについて話し合い、虐待チェックリストで自分を振り替えることができた。 ・1月アンケート調査を実施しご意見を頂いている。今後の業務に活かしていくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住み慣れた地域で在宅生活を維持継続するために、ニーズ把握と自立に向けた目標設定をし、目標達成に向けた援助を考える。 ・不適切ケアを考え、ケアの質向上に繋げる。 ・ヒヤリハットから事故防止と安心できる支援を継続する。 ・利用者、家族、地域の意見を聞き、活かしていく。